Introduction to mathematical statistics ゼミ (第3回)

担当: 伊藤真道

未定

3 Chap.3. Some Special Distribution

3.7 Mixture Distribution / 混合分布

本節では、一般の場合の分布の混合について述べる。k 個の分布が、それぞれ、平均 μ_i 、分散 σ_i^2 と台 (support) S_i である確率密度関数 $f_i(x)$ をを持つとする $(i=1,\ldots,k)$. また、 $p_1+p_2+\cdots+p_k=1$ であるような、正数 p_i を仮定する。今、 $\mathcal{S}=\cup_{i=1}^k \mathcal{S}_i$ とし、以下のような関数を考える。

$$f(x) = p_1 f_1(x) + p_2 f_2(x) + \dots + p_k f_k(x) = \sum_{i=1}^k p_i f_i(x), \ x \in \mathcal{S}$$
 (1)

この関数は、確率密度関数である.

証明 **3.0.** まず, $f_i(x), p_i$ の非負性から $\forall x \in S$ について $f(x) \geq 0$. さらに,

$$\int_{-\infty}^{\infty} f(x)dx = \int_{-\infty}^{\infty} \sum_{i=1}^{k} p_i f_i(x) dx$$

$$= \sum_{i=1}^{k} p_i \int_{-\infty}^{\infty} f_i(x) dx \cdots (*)$$

$$= \sum_{i=1}^{k} p_i \int_{-\infty}^{\infty} f_i(x) dx$$

$$= \sum_{i=1}^{k} p_i$$

$$= 1$$

以上から,f(x) は確率密度関数である.

なお、(*) で積分と和を入れ替えているが、必ずしもこれが成り立つとは限らない。本節では、これが成り立つことを仮定する。以上から、f(x) は連続型確率変数 X の密度関数であることがわかった。X の平均は

$$E[X] = \sum_{i=1}^{k} p_i \int_{-\infty}^{\infty} x f_i(x) dx = \sum_{i=1}^{k} p_i \mu_i = \bar{\mu}$$

のように、 μ_i の重み付き平均で与えられ、分散は、

$$Var(X) = \sum_{i=1}^{k} \int_{-\infty}^{\infty} (x - \bar{\mu})^{2} f(x) dx$$

$$= \sum_{i=1}^{k} p_{i} \int_{-\infty}^{\infty} ((x - \mu_{i}) + (\mu_{i} - \bar{\mu}))^{2} f_{i}(x) dx$$

$$= \sum_{i=1}^{k} p_{i} \int_{-\infty}^{\infty} [(x - \mu_{i})^{2} f_{i}(x) + (\mu_{i} - \bar{\mu})^{2} f_{i}(x) - 2(x - \mu_{i})(\mu_{i} - \bar{\mu}) f_{i}(x)] dx$$

$$= \sum_{i=1}^{k} p_{i} (Var(X_{i}) + \mu_{i} - \bar{\mu})^{2}) \ (\because \sum_{i=1}^{k} p_{i}(\mu_{i} - \bar{\mu}) = 0)$$

$$= \sum_{i=1}^{k} p_{i} \sigma_{i}^{2} + \sum_{i=1}^{k} p_{i}(\mu - \bar{\mu}^{2})$$

のように、 σ_i^2 の重み付き平均と、 μ_i の重み付き分散の和になる.これらの性質は、混合分布について成り立つものであって、確率変数の線型結合とは関係ないということに注意されたい. inote;

分布の混合は、時には混ぜ合わせ?(compounding)と呼ばれる. さらに、混ぜ合わせる分布の数は有限でなくても良い.

例 3.7.1 では、対数ガンマ関数

$$f_1(x) = \begin{cases} \frac{1}{\Gamma(\alpha)\beta^{\alpha}} x^{-(1+\beta)/\beta} (\log x)^{\alpha-1} & x > 1\\ 0 & elsewhere \end{cases}$$

を用いる $(\alpha, \beta > 0)$. ここでは名前と密度関数の紹介だけする.

例 3.1. $X_{\theta} \sim Po(\theta)$ とする. それぞれのパラメータ θ が異なる無限個のポアソン分布の混ぜ合わせを考える. 重み関数を θ の分布, ガンマ関数とする. $x=0,1,2,\ldots$ に対する, 混合された分布の確率質量関数 (probability mass function, pmf) は,

と変形できる. $\alpha = r, \beta = (1-p)/p, 0 の時, この確率質量関数は,$

$$p(x) = \frac{(r+x-1)!}{(r-1)!} \frac{p^r (1-p)^x}{x!}, x = 0, 1, 2, \dots$$

となる. つまり. この分布の混ぜ合わせは、連続する独立な試行において、成功確率がpの事象のr回の成功を得るために必要な試行の数の分布と等しい. これは負の二項分布と呼ばれる.

inote;

混合分布を構成する際、元となる X の確率密度関数を、何らかのパラメータ θ が与えられたもとでの条件付き密度関数 $f(x|\theta)$ とみなし、重み関数を θ の密度関数 $g(\theta)$ で表すとする。この時、 X,θ の同時密度関数は、 $h(x,\theta)=f(x|\theta)g(\theta)$ であり、混合分布は、X の周辺密度関数

$$h(x) = \int_{0}^{1} g(\theta) f(x|\theta) d\theta$$

で与えられる.

例 3.2. $X|\theta \sim N(0,1/\theta), \theta \sim Gam(\alpha,\beta)$ とする. この時, X,θ の同時密度関数は,

$$f(x|\theta)g(\theta) = \left[\sqrt{\frac{\theta}{2\pi}}\exp(-\frac{\theta x^2}{2})\right] \left[\frac{1}{\Gamma(\alpha)\beta^{\alpha}}\theta^{\alpha-1}\exp(-\theta/\beta)\right], -\infty < x < \infty, 0 < \theta < \infty$$

である. X の周辺密度関数を求めるには θ を積分消去すれば良いので,

$$\begin{split} h(x) &= \frac{1}{\sqrt{2\pi}\Gamma(\alpha)\beta^{\alpha}} \int_{0}^{\infty} \theta^{1/2+\alpha-1} \exp(-\theta(\frac{x^{2}}{2} + \frac{1}{\beta})) d\theta \\ &= \frac{1}{\sqrt{2\pi}\Gamma(\alpha)\beta^{\alpha}} \int_{0}^{\infty} \theta^{\alpha+1/2-1} \exp(-\theta(\frac{\beta x^{2} + 2}{2\beta})) d\theta \\ &= \frac{1}{\sqrt{2\pi}\Gamma(\alpha)\beta^{\alpha}} \times \frac{\Gamma(\alpha + 1/2)}{\left[\frac{\beta x^{2} + 2}{2\beta}\right]^{\alpha + 1/2}} \\ &= \frac{\Gamma(\alpha + 1/2)}{\sqrt{2\pi}\Gamma(\alpha)\beta^{\alpha}} \left[\frac{2\beta}{\beta x^{2} + 2}\right]^{\alpha + 1/2} \end{split}$$

 $\alpha = r/2, \beta = 2/r$ の時

$$\begin{split} h(x) &= \frac{\Gamma((r+1)/2)}{\sqrt{2\pi}\Gamma(r/2)(2/r)^{(r/2)}} \Big[\frac{4/r}{(2/r)x^2 + 2} \Big]^{(r+1)/2} \\ &= \frac{\Gamma((r+1)/2)}{\sqrt{2\pi}\Gamma(r/2)(2/r)^{(r/2)}} \Big[\frac{4/r}{2^{\frac{x^2 + r}{r}}} \Big]^{(r+1)/2} \\ &= \frac{\Gamma((r+1)/2)}{\sqrt{2\pi}\Gamma(r/2)(2/r)^{(r/2)}} \Big[\frac{1}{x^2 + r} \Big]^{(r+1)/2} 2^{(r+1)/2} \\ &= \frac{\Gamma((r+1)/2)}{\sqrt{\pi}\Gamma(r/2)} r^{(r/2)} \Big[\frac{1}{x^2 + r} \Big]^{(r+1)/2} \\ &= \frac{\Gamma((r+1)/2)}{\sqrt{r\pi}\Gamma(r/2)} \Big[\frac{r}{x^2 + r} \Big]^{(r+1)/2} \\ &= \frac{\Gamma((r+1)/2)}{\sqrt{\pi}\Gamma(r/2)} r^{(r/2)} \Big[1 + \frac{x^2}{r} \Big]^{-(r+1)/2} \ (\sim t_r) \end{split}$$

のように、X 自由度 r の t 分布 (Student's t-distribution) を持つ. この例では、分布の混合を用いて、一般化された t 分布 (generalized t-distribution) の導出を行なった.

inotei

例 3.3. この例では、分布の裾の長い (heavy tailed)、歪んだ (skew) 分布の混合による導出について考える。 $X|\theta \sim Gam(k,1/\theta), \theta \sim Gam(\alpha,\beta)$ とする。 X の周辺分布は、

$$\begin{split} h(x) &= \int_0^\infty f(x|\theta)g(\theta)d\theta \\ &= \int_0^\infty \left[\frac{x^{k-1}e^{-\theta x}}{(1/\theta)^k\Gamma(k)}\right] \left[\frac{\theta^{\alpha-1}e^{-\theta/\beta}}{\beta^\alpha\Gamma(\alpha)}\right]d\theta \\ &= \frac{x^{k-1}}{\Gamma(k)\beta^\alpha\Gamma(\alpha)} \int_0^\infty \theta^{k+\alpha-1}e^{-\theta(\beta x+1)/\beta}d\theta \\ &= \frac{x^{k-1}}{\Gamma(k)\beta^\alpha\Gamma(\alpha)} \frac{\Gamma(\alpha+k)}{\left[\frac{\beta x+1}{\beta}\right]^{\alpha+k}} \\ &= \frac{\Gamma(\alpha+k)\beta^k x^{k-1}}{\Gamma(k)\Gamma(\alpha)(1+\beta x)^{\alpha+k}} \end{split}$$

となる. これは、一般化パレート分布 (generalized Pareto distribution) および、F 分布の一般化の密度関数である. もし、k=1 ならば、

$$h(x) = \alpha \beta (1 + \beta x)^{-(\alpha+1)}$$

となり、これはパレート分布の密度関数である.これらの混合分布のいずれも、元となったガンマ 分布よりも、裾が分厚くなっている.

パレート分布の分布関数は,

$$H(x) = \int_0^x \alpha \beta (1+\beta t)^{-(\alpha+1)} dt$$
$$= \left[-(1+\beta t)^{-\alpha} \right]_0^x$$
$$= 1 - (1+\beta x)^{-\alpha}, \ 0 \le x < \infty$$

となる. これと $X=Y^{\tau}, \tau>0$ を用いて、別の有用な裾の長い分布を構成できる. Y の分布関数は、

$$G(y) = P[Y \le y] = P[X^{1/\tau} \le y] = P[X \le y^{\tau}]$$

となる. よって、Yの分布関数は、パレート分布の分布関数を用いて

$$G(y) = H(y^{\tau}) = 1 - (1 + \beta y^{\tau})^{-\alpha}, \ 0 < y < \infty$$

と表せる. よって, Y の確率密度関数は,

$$G'(y) = g(y) = \frac{\alpha \beta \tau y^{\tau - 1}}{(1 + \beta x^{\tau})^{\alpha + 1}}, \ 0 < y < \infty$$

となる.

これらに関係する分布は、変形パレート分布 (transformed Pareto distribution), もしくは、 Burr 分布 (Burr distribution) と呼ばれており、裾の重い分布のモデリングに有用だということが 知られている.

jnoteį